

「強行反対」国会騒然

野党、委員会室前に陣取り

安全保障関連法案をめぐる国会審議は16日、参院特別委員会での審議を打ち切りたい与党と採決を阻止したい野党が激しい攻防を繰り返した。国会内では与野党の議員がせめぎ合い、国会周辺は法案に反対する多くの市民が取り囲んだ。横浜市で開かれた地方公聴会では法案の違憲性が改めて指摘され、「安保国会」は法案採決を目前にした大きなヤマ場を迎えた。

「廃案！ 廃案！」
「国民の声を聞け！」
安保関連法案を審議する参院特別委員会の委員会室前は16日午後6時半過ぎ、議論の終局を意味する締めくくりに総括質疑を阻止しようとする野党議員の大きな声で包まれた。

うご集まった野党議員の大会場に包まれた。職権で総括質疑を設定した自民党の鴻池祥隆委員長が委員会室に入ろうとする中、廊下を埋め尽くすほど集まった野党議員が止めようとした。もみくちゃになった。民主、共産、社民各党の女性議員は「怒れる女性議員の会」と書いたピンク色ののぼり旗を頭に巻き、「女性の公述人を国会に呼んで下さい」と訴えるなど、整備を進めた。安倍晋三首相は採決に向けた環境を狭くし、総括質疑に先立ち、横浜市で16日午後から行われた地方公聴会。会場となったホテルは法案に反対する群衆に囲まれ、多

時時刻刻

その後、参院本会議の開会を告げるベルが鳴り、自民党の山崎正昭議長が着席しようとした瞬間、野党議員から「違憲立法のベルを鳴らしたらダメだぞ」とヤジが飛んだ。

地方公聴会でも「違憲」

相はこの日、公明の山口那津男代表とともに野党の次世代の党、日本を元気にする会、新党改革の3党との党首会議に臨んだ。3党が求めていた自衛隊派遣時の国会の関与強化について、安倍内閣の閣議決定や国会の付帯決議によって担保することで合意した。

交渉の最終局面で、首相は自ら「ある程度、譲っても良い」と指示を出した。

たことは2点。採決を前提とした締めくくり総括は認められない。そして、委員会の強行採決をするなら、(関係閣僚への)問責決議(関係閣僚への)問責決議や内閣不信任案を含めて、あらゆる手段でこれを阻止する」と訴えた。

安保法制をめぐる動き

2007年	8月	第1次安倍政権下で、集団的自衛権を研究する私的諮問機関が初会合。翌年に報告書をまとめるが、法制化されず
	9月	安倍晋三首相が体調不良で退陣
12年	2月	安倍首相が再登板
13年	2月	第2次安倍政権下で、諮問機関が再開
	8月	内閣法制局長官に集団的自衛権行使容認派の小松一郎氏起用
14年	5月	諮問機関が集団的自衛権の行使を容認する報告書を安倍首相に提出。首相は行使容認方針を与党に指示
	7月	集団的自衛権の行使容認などを閣議決定
15年	4月	安倍首相が米議会上下両院合同会議で演説
	5月	安保関連法案を閣議決定し、国会に提出
	6月	衆院憲法審査会で参事考人招致された長谷部恭男・早大教授らが「違憲」と指摘
	7月	衆院特別委員会の審議が116時間を超えたと強行し、衆院通過
	8月	国会周辺で12万人(主催者発表)のデモ
	9月	参院の審議が97時間を超え、与党は採決をめざす



数の警察官が配置される物々しい雰囲気の中で始まった。前日の中央公聴会に続き、野党推薦の公述人からは「憲法違反」「立憲主義に反する」と、法案の根幹部分や安倍政権の政治手法に対する批判が相次いだ。

「憲法違反」「立憲主義に反する」と、法案の根幹部分や安倍政権の政治手法に対する批判が相次いだ。

「憲法違反」「立憲主義に反する」と、法案の根幹部分や安倍政権の政治手法に対する批判が相次いだ。

弁護士の水上貴夫氏は、外国軍艦などを自衛官が武器を使って守ることは事実上他国防衛にあたるとしたうえで、「武力行使の新しい要件」に縛られず集団的自衛権の行使を認めるものだと主張。「違憲の問題を抱えているだけでなく、法律自体が欠陥法案だ」と述べ、いったん廃案にして出直すべきだと訴えた。

一方、与党推薦の公述人は、日本に対する周辺国の武力攻撃を思いとどまらせる抑止力の強化につながる法案だと主張した。

日米の安保政策に詳しい渡部雄雄・東京財団上席研究員は「日本が侵略され、軍事の圧力に屈するリスクを少なくすることが目的だ」と強調。安倍政権の進め方についても「法律は万能ではない。国際情勢や(自国や他国の)軍事力が変われば変えないといけない」として理解を示した。

で領海侵犯を繰り返す中国を名指し。さらに朝鮮半島有事の場合、法整備によって日本への攻撃前でも他国軍への攻撃が排除できるメリットを強調した。「法案の根幹は現状変更を試みようとする他国の意思をくじくことにある」

先月まで海上自衛隊基地方総監を務めていた伊藤俊幸・元海将は、尖閣諸島の領有権をめぐって東シナ海のヤジが起きた。(石松信)